

令和元年

壱岐市議会定例会 1 2 月会議

行政報告

壱岐市

目 次

1. はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
（1）長崎県への要望書の提出について・・・・・・・・	2
（2）Smart News（スマートニュース）「壱岐市チャンネル」の 開設について・・・・・・・・・・・・・・・・	3
（3）まちづくり協議会の推進について・・・・・・・・	3
（4）SDGsフェスティバルの開催について・・・・・・・・	4
（5）SDGs推進に関する連携協力協定の締結について・・・・・・・・	5
（6）第3次壱岐市総合計画について・・・・・・・・	6
（7）トライアル逆参勤交代事業について・・・・・・・・	6
（8）壱岐市ケーブルテレビ施設について・・・・・・・・	7
2. 災害復旧	
（1）農地・農業用施設等災害復旧について・・・・・・・・	8
（2）公共土木施設災害復旧事業について・・・・・・・・	8
3. 交流人口の拡大	
（1）観光振興について・・・・・・・・・・・・・・・・	9
（2）壱岐ウルトラマラソンについて・・・・・・・・	10
4. 産業の振興	
（1）農業の振興について・・・・・・・・・・・・・・・・	12
（2）水産業の振興について・・・・・・・・・・・・・・・・	13
5. 市民	
（1）福岡大学と壱岐市及び壱岐医師会との保健・医療に関する連携協定の 締結について・・・・・・・・・・・・・・・・	14
6. 教育	
（1）教育施設的环境整備について・・・・・・・・	15
（2）いきっこ留学制度について・・・・・・・・	16
7. 防災、消防・救急	
（1）防災対策について・・・・・・・・・・・・・・・・	17
（2）消防・救急について・・・・・・・・・・・・・・・・	18
8. 議案説明	
（1）補正予算について・・・・・・・・・・・・・・・・	19
（2）その他の議案について・・・・・・・・・・・・・・・・	19
9. おわりに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20

行政報告

令和元年壱岐市議会定例会 1 2 月会議

1. はじめに

本日ここに、令和元年壱岐市議会定例会 1 2 月会議にあたり、前会議から本日までの市政の重要事項、及び今回補正予算に計上した主な内容等についてご報告申し上げ、議員皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

さて、令和元年秋の叙勲において、本市から、行政相談委員の まがみ 真上 せいじ 征治 様が行政相談功労として瑞宝双光章を、元日本郵政公社職員・特定郵便局長の まつもと ひさいち 松本 久一 様が郵政事業功労として瑞宝双光章を、元勝本町消防団分団長の ふくだ やすと 福田 靖人 様が消防功労として瑞宝単光章を、それぞれ受章されました。

また、令和元年度ながさき農林業大賞において、本市からは農産部門で農事組合法人 ひろうと 平人営農組合 様、しまの農林業経営部門に やなぎがわ のぶゆき 柳川 信行 様、地産地消・食農部門に 勝本地区納豆生産組合 様が運営委員会賞を受賞され、同じくながさき水産業大賞において、本市からは株式会社 若宮水産 様が運営委員会賞を受賞されました。

さらに、本年度の県民表彰において、消防・防災功労として、壱岐市消防団長の いわなが あきら 岩永 章 様が、社会福祉功労として、民生委員児童委員の かわぐち れいこ 川口 令子 様、保護司の みのだ なおみ 蓑田 直美 様、同じく保護司の さかぐち てつお 坂口 鉄生 様が、産業（商工）功労として、壱岐市商工会長の よしだ ひろし 吉田 寛 様が、それぞれ受賞されました。

この度、叙勲、表彰の栄に浴された皆様に対し、今日まで築かれ

たご功績に、深甚なる敬意を表しますとともに、心からお慶び申し上げます。

(1) 長崎県への要望書の提出について

去る10月31日に、長崎県並びに長崎県議会へ、壱岐市・壱岐市議会連名の単独要望を行いました。中村知事をはじめ幹部職員、そして県議会では、西川^{にしかわ} 克己^{かつみ} 副議長様にご対応いただいたところであります。本市からは、山本^{やまもと} 啓介^{けいすけ} 県議会議員にもご同席いただき、10項目の要望書を豊坂議長とともに提出したところであります。

本年度の重点要望項目として、「空港の整備等について」「磯焼け対策に関する支援の拡充について」「クロマグロの漁獲枠の拡大及び資源管理に伴う支援について」の3項目をご説明申し上げます。

この中で、「磯焼け対策に関する支援の拡充について」「クロマグロの漁獲枠の拡大及び資源管理に伴う支援について」は、国への予算確保等についての要望等連携を図りながら取り組むことをご回答いただきました。また、「空港の整備等について」では、更新時期を迎えたQ200型機に替わる機種についての検討が進められていることの説明がある一方で、空港の整備については、多額の費用を要することや採択条件、用地の確保等困難な状況にあり、調査費の確保については厳しい旨の説明を受けました。しかしながら、有人国境離島法の制定や交流人口拡大に向けた施策、あるいはインバウンドの推進等環境が大きく変わる中で、定期航空路の維持存続だけではなく、福岡・大阪あるいは東京からのチャーター便などを視野に入

れた施策が必要であり、そのためには、想定される機種が離発着できる最低1,500m以上の滑走路を有する空港の整備が必要であることを再度申し上げます。壱岐市の将来を見据え、今後も引き続き、強く要望してまいりたいと考えております。

この他の要望項目も、本市にとって極めて重要な施策であり、ご理解をいただくよう引き続き協議を重ね、県との連携を密にし、本市の振興発展に全力で取り組んでまいります。

(2) Smart News (スマートニュース)「壱岐市チャンネル」 の開設について

スマートニュースは、スマートニュース株式会社が運営するスマートフォン・タブレット向けニュースアプリで、世界中の良質な情報を必要な人々に送ることを目的に、日米で5,000万ダウンロードを超えるなど、日本最大級の情報発信アプリです。

このスマートニュースにおける「壱岐市チャンネル」を、去る11月22日に、全国の市町村としては、初めて開設いたしました。これにより、壱岐市の公式情報や市政情報、移住、観光情報、また最新ニュースやグルメ・イベント等、本市に関する幅広い情報が発信されることになり、壱岐市のさらなるPR等に繋がることとなります。今後も、あらゆる機会を利用し、壱岐市の情報発信に積極的に取り組んでまいります。

(3) まちづくり協議会の推進について

市民皆様が主体となった協働のまちづくり実現に向けて、小学校区を単位とした、まちづくり協議会の設立を推進しておりますが、

本市で最初のまちづくり協議会が三島小学校区において10月1日に設立されました。

その他にも、11地域におきまして、設立準備委員会又は幹事会が立ち上がり、設立に向けた準備が進められております。

集落支援員については、既に6地域で配置又は決定がなされ、その他4地域において、公募中であります。また、まちづくり協議会の拠点となる施設についても、インターネット環境をはじめとする環境整備を実施しているところであり、今回、整備に係る補正予算を計上しております。

今後も、SDGs未来課及び地域担当職員を中心に、全職員総力を挙げて、まちづくり協議会設立に向けた取組を進めてまいります。

(4) SDGsフェスティバルの開催について

市民皆様にSDGsに興味・関心を持っていただくきっかけを作るため、11月16日、弁天崎公園で「SDGsフェスティバル」を開催し、市内外から約850人の方にご来場いただきました。

このイベントは、市民皆様を含めた実行委員会を立ち上げ、さらに本市のSDGsの取組にご賛同いただいた多くの企業とともに企画を練った、まさに市民協働・官民連携のイベントとなりました。

イベント内容としては、水素自動車や移動電源車のデモンストラーションのほか、ドローン自動航行の飛行試験や電動キックスクーター試乗等、未来の一端に触れることができました。

また、壱岐の今後の可能性やこれからの働き方などについて、それぞれの分野の第一線で活躍されている方々によるトークセッション

ョンのほか、セイタカアワダチソウを使った草木染めや壺岐オリジナルのSDGsカードゲームなど、SDGsを楽しく学ぶ機会も提供できたものと考えております。

今後もSDGsを市民皆様により身近に感じていただけるよう、様々な機会を設け、SDGsの浸透を図るとともに、効果的な情報発信に努めてまいります。

(5) SDGs推進に関する連携協力協定の締結について

去る10月23日、株式会社キャニオン・マインド（本社：大阪府高槻市、代表取締役：^{にしおか ひろし}西岡 博史 氏）及び株式会社九電ビジネスフロント（本社：福岡県福岡市、社長：^{なかがわ かつみ}中川 勝美 氏）とSDGs推進に関する連携協力協定を締結しました。

キャニオン・マインドにおかれては、30年の長きにわたり幼児教育から大学受験対策、さらには障害児・病児教育等、オンラインによる遠隔教育の指導実績があります。

また、九電ビジネスフロントにおかれては、九州電力株式会社のグループ企業として、人材派遣・紹介、教育研修等、総合人材サービス事業を展開されております。

今回の連携協力協定では、キャニオン・マインドが独自開発されたオンライン遠隔教育システムや、九電ビジネスフロントの豊富な人材とその育成ノウハウを活用し、本市における人材育成、教育格差の解消及び先進的教育モデルの構築と並行しながら、人材活用、働く場の創出及び雇用の拡大を目指して締結したものであります。

この連携協力協定を受け、キャニオン・マインドがテレワークセ

ンター内に拠点を設けられており、より地元根ざした幅広い交流が行われることを期待するとともに、本市の掲げる「壱岐（粋）なソサイエティー5.0」の実現に向けて、連携を図ってまいります。

（6）第3次壱岐市総合計画について

第3次壱岐市総合計画については、昨年度から策定に取り組み、9月に骨子案がまとまったことから、10月に市民皆様から広くご意見をお聞きするためパブリックコメントを実施し、その後、壱岐市総合計画審議会での最終的なご審議をいただき、去る11月22日に答申を受けたところであります。

今回の第3次壱岐市総合計画は、これまで別建てであった総合戦略を包含し、さらにSDGsの理念を盛り込んだ計画として、向こう5年間の本市のまちづくりについて策定しております。

今後は、本計画の目標達成並びに本市の地方創生を全力で推進してまいりますので、議員皆様、市民皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

（7）トライアル逆参勤交代事業について

本市の政策顧問である松田^{まつだ}智生^{ともお}氏が提唱されている「逆参勤交代構想」は、首都圏などの大都市の企業社員が期間限定かつ交代制で地方に勤務することで、働き方改革と地方活性化の同時実現を目指すものであります。

今回、9月27日から29日にかけて、本市においてトライアル逆参勤交代が開催され、参加者及び関係者16名が来島されました。今回、内閣府から3名及び長崎県から1名が視察に見えられ、本事

業への期待の高さが感じられたところであります。

本市の課題である人口減少問題や地域活性化等について、参加者の皆様と、市民団体の「たちまち」、移住者の皆様、こころ医療福祉専門学校等との意見交換が行われ、最終日には参加者一人一人から課題解決に向けた提案を受け、松田政策顧問からは「プラチナ大学壱岐分校」の開校など次年度以降の取組についてご提案をいただいたところであります。

10月30日には、本事業の総括となる東京講座が開催され、参加された企業の中から本市の地方創生に寄与したいとの積極的なご意見をいただくなど、本市にとって今後につながる貴重な関係性を築くことができたものと考えております。

今後は、本事業により多くの関係人口創出や企業との連携による地方創生の取組を進めてまいります。

(8) 壱岐市ケーブルテレビ施設について

壱岐市ケーブルテレビ施設の指定管理者の引継ぎにつきましては、去る10月11日に協定書に基づく引継ぎの合意に至ったところであります。

この間、市民皆様には、大変ご心配おかけいたしましたことを、心からお詫び申し上げます。

現在、市民皆様に対し、回覧やケーブルテレビ、市広報紙を通じて、通信の秘密や個人情報の取扱いについて、同意書書の提出をお願いしているところであり、11月末現在において、契約をいただいております9,714件のうち7,872件、81%の方からご

回答をいただいております。

今後も、ご回答をいただいていない方に対しましては、引続き、現指定管理者と連携し、葉書の提出についてお願いをするとともに、来年4月1日にスムーズな移行ができるよう努めてまいります。

また、今回の補正予算において、再構築費用を減額し、合意に基づく関連する所要の予算を計上しております。

2. 災害復旧

(1) 農地・農業用施設等災害復旧について

農地・農業用施設等災害について、平成29年度発生分における今年度に繰り越した、国庫補助金交付決定箇所11月末現在の発注状況は、284地区中279地区となり、残り5地区となっております。平成29年災は、制度上、災害発生から3箇年で復旧することが義務づけられており、鋭意復旧を進めております。このため、平成30年発生分の64地区については、災害復旧計画に遅れが生じたため、繰り越す予定であります。

また、令和元年度災害については、郷ノ浦町平人触において大規模な農地保全施設の災害が発生しており、当該箇所を含め約30か所について、12月中に国庫補助対象の査定を受検する予定であります。

(2) 公共土木施設災害復旧事業について

平成29年に本市で発生した公共土木施設災害については、同年12月から工事発注を行い、順次復旧を進めております。現在までの進捗状況は、国庫補助災害279か所全てを工事契約し、内271

か所が完成しており、またその他単独災害についても、84か所中79か所を契約し、内75か所が完成しております。

平成30年発生災害は、国庫補助災害28か所でありましたが、28か所全てを契約し、内14か所が完成しております。

令和元年に発生した国庫補助災害については、道路災害10か所、河川災害2か所、計12か所で被害額4千万円であり、またその他単独災害が道路災害16か所で被害額3千万円であります。以上の災害につきましては、12月から実施設計を進め工事発注を行い、順次復旧に努めてまいります。

3. 交流人口の拡大

(1) 観光振興について

去る10月6日、一支国博物館の開館以来の入館者数が100万人に到達いたしました。平成22年3月の開館から来年3月には10周年を迎えますが、これまで本市の歴史や文化を島内外に情報発信する拠点施設として、また観光客誘客の核となる施設として様々な事業を展開するとともに、市民皆様の憩いの場となるよう取り組んでまいりました。

11月17日には「令和ゆかりの地・壱岐」と題し、万葉公園開園50周年に合わせたイベントを行いました。ご承知のとおり、新元号「令和」の典拠は万葉集であり、令和の始まりの年に万葉公園は50周年を迎えております。このイベントは、壱岐の島にも万葉集ゆかりの地が存在することを島内外へ情報発信するため開催したものであ

り、犬養^{いぬかい}万葉記念館の岡本^{おかもと}三千代^{みちよ}館長による講話や大宰府万葉会による歌語り、壱岐文化協会及び壱岐文化団体協議会の皆様による短歌創作コンテストなどを実施いたしました。イベント当日は、東京・関西方面からのツアー参加者の皆様にもご参加いただき、地元の多くのお客様とともに賑わいました。首都圏や関西方面へのツアー募集による広告効果を含め、イベント自体を新聞報道等で取り上げていただいております。効果的な情報発信ができたものと考えております。

また、この度、東京壱岐雪州会、東海壱岐の会、関西壱岐の会、福岡壱岐の会の皆様から、本市への来島を歓迎する横断幕をご寄贈いただき、郷ノ浦港ターミナルと観光案内所及び芦辺港ターミナルに設置いたしました。印通寺港については、既存の歓迎案内表示がなされておりましたが、これまで郷ノ浦港と芦辺港には、下船の際すぐに目に入る位置に歓迎の横断幕等がなかったため、今回寄贈いただいた横断幕は、来島される多くの皆様の目に留まる場所に設置しております。各壱岐の会の皆様には、これまでも故郷・壱岐のため様々のご尽力をいただいております。この度の歓迎横断幕の寄贈についても大変ありがたく、深く感謝を申し上げます。

(2) 壱岐ウルトラマラソンについて

10月19日に開催した「神々の島 壱岐ウルトラマラソン2019」は、多くの皆様からご協力をいただき、おかげをもちまして事故もなく、盛会に終了することができました。大会運営にご協力をいただきました皆様へ、改めてお礼を申し上げます。

今年の大会には、全国各地から695人のエントリーをいただき、

絶好のマラソン日和のもと、100kmに414人、50kmに206人、総勢620人のランナーが出走されました。

沿道の市民皆様のあたたかいご声援が、健脚を競うランナーの大きな力となり、完走率は100kmが68.1%、50kmが86.9%となりました。

ランナーの皆様からは、「次回も必ず参加したい」、「景色も、途切れない沿道の声援も素晴らしかった」、「間違いなく全国トップクラスの大会」、「子どもたちの手作りの、のぼりや手紙に感動した」など、多くの嬉しい声が寄せられており、全国のランナーが集まるインターネットサイトであるランネットにおける大会ランキングでは、ウルトラマラソン大会の部門で全国2位の評価をいただいております。

過去大会の反省点や課題等を検証し実施した今年の大会は、官民連携によるおもてなしがより充実したものとなり、経済効果も考慮すると、まちづくりイベントとして大きな成果を挙げたものと捉えております。

長時間にわたる本大会を献身的に支えていただいたボランティアの皆様、沿道からのあたたかい声援やコース周辺の交通規制等、円滑な大会運営にご理解をいただいた市民皆様、協賛及び支援をいただいた事業所及び各種団体の皆様など、今大会を支えていただいた全ての皆様に心から感謝を申し上げます。

来年は、第5回大会となり1つの節目を迎えます。ランナーの皆様をはじめ、大会運営に携わっていただいた皆様の声を一つひとつ真摯に受け止めさらなる進化を図り、日本一満足度の高いウルトラマラソン大会を目指して取り組んでまいります。

4. 産業の振興

(1) 農業の振興について

本年度の水稻の作況指数は、長崎県全体では94、壱岐市においては101と平年を上回る発表がなされました。10月30日現在の等級成績は、早期米については、「コシヒカリ」の一部が1等でありましたが、高温耐性のある「つや姫」は全て1等でありました。普通期米については、8月以降の長雨、台風等で日照不足により、「にこまる」と「なつほのか」は全て2等でありました。

葉たばこについては、移植後、生育も順調に推移し、壱岐全体の平均収量は、10アール当たり299kgと昨年を大きく上回る豊作となりました。9月25日から30日にかけて行われた葉たばこ販売では、1kg当たりの代金は1,834円と昨年を下回りましたが、10アール当たり代金は547,427円と近年にない高い成績でありました。

畜産については、令和4年の全国和牛能力共進会鹿児島大会を見据え、産地間競争に打ち勝つための牛づくりと、「壱岐牛」のさらなる銘柄確立を図ることを目的として、10月23日に第9回壱岐市和牛共進会が開催され、各地区から選考された41頭が集う中で、第1部は箱崎の とみた だいき 富田 大樹 様、第2部は箱崎の まつなが やすこ 松永 靖子 様、第3部は那賀の よしい ふみかず 吉井 文数 様、第4部は箱崎の やまもと なおこ 山本 直子 様がそれぞれ優秀賞を獲得され、また、その中で第3部の吉井 文数 様のけいこ号がグランドチャンピオンに輝きました。

また、9月9日に福岡食肉市場で開催された「肉牛の部」に21頭が出品され、^{やまもと みつとし}山本 満年 様が見事金賞を獲得されました。この共進会を通じて、肉用牛農家の生産意欲の高揚と経営安定が図られることを期待するものであります。

肉用牛経営における子牛の販売は、繁殖農家の減少に伴い全国的に高値で推移しておりますが、肥育農家においては厳しい経営を強いられております。12月1日、2日に開催された子牛市では、平均価格が10月市と比較し、1頭当たり約7千5百円高の平均79万1千円となっており、依然高値での取引となっております。今後も、産地維持のため関係機関と連携を図り、繁殖基盤の強化を推進してまいります。

また、緑化推進活動の一環として、11月2日に筒城浜一帯において「森林のつどい^{もり}」を開催し、壱岐市内の緑の少年団や各小学校の児童並びに保護者の皆さんによる植樹活動及び育樹活動を行いました。当日午前で開催された、壱岐地区緑の少年団地域交流会では、市内4つの緑の少年団の活動発表が行われ、優良発表団体に郷ノ浦緑の少年団（渡良小学校）が選ばれ、今月8日に諫早市で開催される長崎県交流集会への出場が決定しております。これらの活動は、次代を担う子どもたちが、緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育て、ふるさとを愛し、そして人を愛する心豊かな人間に育ていくために意義深い活動となっております。

（2）水産業の振興について

本年4月から10月までの本市の漁獲量及び漁獲高を昨年同期と

比較しますと、漁獲量は933トンの39.2%減、漁獲高は9億2千5百万円の37.9%減と漁獲量、漁獲高とも大幅に減少しております。主な要因は、全国的なイカ類の不漁や資源管理のためのクロマグロの漁獲抑制、磯焼けによる藻場の消失などが考えられます。

先ほど申し述べましたが、本年度の長崎県への要望において、クロマグロの漁獲制限については、沿岸漁業の漁獲枠の拡大、資源管理に伴う減収補填措置の充実、放流支援の充実等、国への働きかけを要望し、併せて、磯焼け対策についても植食性動物の駆除等に関する支援の拡充を要望したところです。

また、去る11月1日付けで海の資源回復担当の地域おこし協力隊として^{はまの ようへい}濱野 陽平 氏を委嘱いたしました。壱岐栽培センターでの種苗生産や水産資源改善、藻場回復等に取り組んでいただき、本市の水産資源の早期回復が図られることを期待しております。

依然として、本市水産業は大変厳しい状況が続いておりますが、今後も引き続き漁業者の皆様そして各漁協をはじめ関係機関と連携を図り、有人国境離島法による制度を活用した施策等、水産振興に積極的に取り組んでまいります。

5. 市民

(1) 福岡大学と壱岐市及び壱岐医師会との保健・医療に関する連携協定の締結について

去る11月6日、福岡大学において、福岡大学と壱岐医師会及び壱岐市の三者において、保健・医療に関する連携協定を締結いたし

ました。本協定は、保健・医療分野において相互に協力し、壱岐市における疾病の予防及び健康寿命の延伸に努め、地域社会の健全な発展とそれを支える人材の育成に寄与することを目的としています。

これまで福岡大学、壱岐市及び壱岐医師会では、連携して慢性腎臓病の予防に取り組んでまいりましたが、一定の成果を上げつつあることを受けて、長崎県壱岐病院院長から正式に協定を締結し、さらに連携を推し進めたいとの提案があり今回の連携協定の締結となりました。

協定締結により、慢性腎臓病等のさらなる予防促進をはじめ、壱岐市における保健・医療に関する全般的な改善、及び福岡大学における研究活動の充実・向上、さらには地域社会との連携・交流活動の促進により、壱岐市民皆様の健康増進並びに健康寿命の延伸に繋がるよう取り組んでまいります。

6. 教育

(1) 教育施設の環境整備について

芦辺中学校校舎改築及び改修工事については、工事遅延によるご迷惑をおかけしていましたが、11月1日から新しい校舎での教育活動を開始しております。

同日午前8時から、教育委員会、学校及び生徒会により移転式を兼ねた開校式を執り行い、教育長より新芦辺中学校が芦辺町中野郷西触400番地1でスタートすることを宣言いたしました。

移転作業には、保護者や地域の皆様をはじめ多くの方々のご協力

をいただき、事故等もなく、無事に行うことができました。11月13日には文化祭が開催され、保護者の皆様に新校舎のお披露目を行ったところであり、一般の方の見学についても、随時対応可能としております。

また、スクールバスについても田河・八幡・芦辺地区の新ルートで計画どおり運行ができており、今後も、次代を担う生徒たちが安全で快適な環境で学ぶことができるよう、学校施設整備の充実を図ってまいります。

なお、本工事の遅延について、建築主体工事受注業者に対し、遅延日数に係る損害金を請求し納付済みであります。また、本市の公共工事に対する信頼を失墜させ、市民皆様、学校現場及び議会運営に多大な影響と混乱を招いたことから、壱岐市が発注する工事等の契約に係る入札参加資格者の指名停止の措置要領第2条の規定により、指名停止の措置を行うとともに、その責任の所在を明らかにするため、市長及び教育長の給与の特例に関する条例の制定について、今回、議案を提出しております。

(2) いきっこ留学制度について

現在、留学中の児童生徒16名について、次年度の留学等の意向調査を実施した結果、継続される方は10名でありました。内訳は、里親留学4名（小学生1名・中学生3名）、孫戻し留学3名（小学生2名・中学生1名）、親子留学3名（小学生1名・中学生2名）となっており、残り6名の方は、中学校卒業及び留学期間の満了となります。

また、令和2年度「いきっこ留学生」の募集を9月2日から10月25日まで行い、随時、学校及び里親宅の見学並びに教育委員会面談等を実施した結果、新たな留学生として里親留学5名（小学生2名・中学生3名）、孫戻し留学1名（中学生1名）、親子留学2名（小学生2名）の計8名の申請があり、全員を「いきっこ留学生」として決定しております。これにより留学生は、現在18名となっております。

募集期間終了後も全国各地から問合せや学校見学等に来島されており、留学希望の内容等を慎重に検討し、可能な限り受入れを行いたいと考えております。

里親については、新たに1名の申込みがあり、計4名での受入れの準備を進めております。今後とも、地域で留学生を受け入れていただくとともに、地域の学校を支援していただきますよう市民皆様のご協力をお願いいたします。

7. 防災、消防・救急

（1）防災対策について

去る10月6日に、郷ノ浦新港一帯において、令和元年度壱岐市防災訓練を、関係機関28組織429名の参加協力により行いました。訓練は、壱岐市で震度6強の地震が発生して甚大な被害が発生したと想定し、大がかりで実践的な内容により実施したところです。

また、原子力防災についても、11月1日に、本市で7回目となる原子力安全連絡会が長崎県の主催で開催され、市、県、九州電力、

各関係機関の代表16名が出席し、玄海原子力発電所に関する防災対策などについて、情報の共有及び意見交換を行ったところであります。

さらに、11月30日には、玄海原子力発電所での放射能漏れ事故を想定した令和元年度長崎県原子力防災訓練が、本市を含めた県内4市と長崎県、佐賀県、福岡県の3県合同で開催されました。多くの防災関係機関の参加により、本市においては、地域住民の避難訓練、緊急被ばく医療訓練、福岡県中間市への広域避難訓練等を実施したところであります。

今年は、8月に九州北部で発生した集中豪雨をはじめ、9月から10月にかけて台風や集中豪雨等が頻発し、東日本を中心に大規模かつ深刻な被害をもたらし、今もなお住民の方々の生活に多大な影響を与えている地域もあります。

本市においては建物や農業施設の被害、倒木等があったものの、幸い大きな被害は発生しておりません。また、台風接近に当たっても早めの警戒体制を取るなど対策を行ったところであり、今後も、関係機関と十分連携を図り、災害対策に万全を期してまいります。

市民皆様には、日頃の備え、避難場所の確認等、自助、共助の強化をお願いいたします。

(2) 消防・救急について

本年1月から11月末日までの火災・救急発生状況は、火災27件、救急1,603件となっており、昨年同期と比較しますと、火災が6件の減、救急が21件の増となっております。

これから年末年始にかけては、火災の発生しやすい時期となります。市民皆様には、火の取扱いなど十分ご注意願います。また、インフルエンザの発生しやすい季節となりますので、手洗い・うがい等感染対策及び健康管理に注意されるよう合わせてお願いいたします。

8. 議案説明

次に、議案関係についてご説明いたします。

(1) 補正予算について

本議会に提出した令和元年度補正予算の概要は、

一般会計補正額 △1億3,700万円

各特別会計の補正総額 980万7千円

となり、本定例会に提出いたしました一般会計、各特別会計の補正額の合計は、 △1億2,719万3千円

となります。なお、現計予算と合算した本年度の一般会計予算は、

250億1,900万円

で、特別会計については、 86億4,068万5千円

となっております。

(2) その他の議案について

本日提出いたしました案件の概要は、条例の制定・改正に係る案件10件、公の施設の指定管理者の指定に係る案件5件、計画の策定に係る案件1件、契約案件1件、予算案件4件であります。

何とぞ十分にご審議をいただき、適正なるご判断を賜りますようお願い申し上げます。

9. おわりに

以上をもちまして、前会議以降の市政の重要事項また政策等について申し述べましたが、様々な行政課題に対し、今後も誠心誠意、全力で取り組んでまいり所存でありますので、議員各位並びに市民皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年12月4日

壱岐市長 白川博一